

「死刑廃止を推進する議員連盟」からの死刑制度に関する世論調査についての意見

亀井会長 それは、法務省の人に申し訳ないけれども、アンケートの取り方があると思うんです、一つは。どうしても死をもって償わせなければいけないということまで確信的に思っている人が80何%いるのか。そうじゃなくて、重無期刑のような別な形で償わせるということの場合はどうかという併問していった場合、私は、回答というのはがらっと違ってくる。私は特にある中学の先生から教え子についてアンケートのあれが来たんだけど、これは二つやられている。その中で、死刑賛成か反対かという中で、死刑賛成だと。これは子供ですよ、中学生だけでも。じゃあ終身刑では駄目なのかといった場合、死刑でなきゃいけないというのがほとんどいなくなっちゃったんです。中学生の場合だけだね。だから、それは、さっきもちょっと私言いましたけれども、死刑が最高刑、極刑としてあるから、凶悪なことをやったやつにはそれを科すべきだということで、極刑が終身刑であれば、それで私はいいいという折り合いのつけ方と言ったらおかしいけれども、心理的にする人は非常に多いと思います。今のマスコミの調査の仕方だってそうだけれども、特に法務省の調査の仕方というのを私は見ていると、もうちょっとそのあたりを細かく調査されれば別な結論が出てくるような気がしますけどね。という感じがします。

※ 「死刑の在り方についての勉強会」第7回勉強会議事録より抜粋